

庭園改修の記録と痕跡 —名勝滴翠園の発掘調査成果より—

（公財）京都市埋蔵文化財研究所
近藤奈央

はじめに

名勝滴翠園は、文献や絵図等の記録から庭園の改修地点やその時期が確認できた貴重な庭園です。また、発掘調査によって知られていなかった施設が見つかった庭園でもあります。改修される以前と以後の姿が明らかとなった庭園の調査を紹介します。

1. 滴翠園の来歴（表 1、図 1・2）

龍谷山本願寺（以下、西本願寺）は、天正 19 年（1591）に豊臣秀吉から寺地の寄進を受け、大坂天満から現在地（堀川七条）へ遷移してきました。滴翠園はその西本願寺境内の南東に造られた回遊式庭園です。元和 3 年（1617）以前や寛永 2 年（1625）以降に描かれた『洛中洛外図』には、敷地南東に 2 層楼閣や池、築山、鐘楼などが確認できることから、飛雲閣またはその前身となる楼閣建築に伴う庭が造られていたようですが、造られた正確な年代は分かっていません。「滴翠園」として整備されるのは、明和 3 年（1766）から始まった修理であり、『滴翠園十勝』の景観が造られました。この時に、醒眠泉や書学文所跡が取り込まれ、現在の規模になりました。その後も筆塚の建立や憶昔亭いくじやくていの増築、西池の掘削等の改修や修理が行われました。

2. 滴翠園の調査（図 5～12・14～18）

平成 8 年（1996）～ 20 年（2008）および令和元・5 年（2019・2023）に滴翠園内の整備事業および防災工事に伴って、合計 14 回の発掘・立会・確認調査を行いました。

滄浪池北東の調査（9・10 区）では、北東から水を引き入れるために近現代になってから敷設された土管や、江戸時代の給水経路である花崗岩製導水路や滝石組、漆喰榭が見つかりました。滄浪池南西の飛雲閣（図 3）と黄鶴台を繋ぐ鼠廊南側に設定した 14 区では、旧池の肩口と埋土を確認し、廊下の土台が後世に造られた護岸で、さらに南側に入江状の池が続いていたことを確認しました。飛雲閣対岸の舟着き場（13 区）では、石段最下段の踏面に方形の切石を斜め方向に向けて敷いていたことや、江戸時代の池の水位が現在より 0.15m 低かったことも分かりました。築山南裾部の調査（11 区など）では、据え付け当時の状態で埋められた旧護岸石や、拳大の石が敷き詰められた旧汀が見つかり、滄浪池北岸は 2 m 程北へ広がること、北東部の埋められた滝石組たきいしぐみの存在から、園路は明和期やそれ以降に付け足された施設であることが分かりました。西半の露地では、園路の変遷や醒眠泉（図 4）が円形木柵組井戸であったことが明らかとなりました。

3. 絵図などの資料について～見つかった遺構の検討～（図 13・19～21）

『滴翠園十勝絵』は文化 9 年（1812）に製作された幅約 0.4m、長さ約 12.5m の着色絵巻一巻です。「十勝」と称される飛雲閣、滄浪地、龍背橋、踏花塙、胡蝶亭、嘯月波、黄鶴台、艷雪林、醒眠泉、澆花亭が描かれ、それぞれの景観を詠んだ十勝詩が添えられています。明和期の改修後まもない時期の滴翠園の様子が細部に

至るまで写実的に描写されており、現状と比較して明らかに異なる部分が確認できた貴重な資料です。その他の本願寺境内を描いた境内図や絵図、銅版画等は正確さに欠ける部分もありますが、地中から見つかった遺構の時期などを決める上で参考になり、庭園の変遷を明らかにするための補完資料となりました。

4. まとめ

初期の造庭が行われたのち、東半部の明和期の改修では、池の一部や庭石を埋め戻し、給排水路を変更して、園路の取付を行うなど回遊式庭園への大々的な改築が認められました。築山については、当初現状のほぼ半分の高さであったのを、明和期以前の飛雲閣側からの景観と、築山上の胡蝶亭（現傘亭）から飛雲閣の眺望を得るために、盛土を行って規模を大きくしたことも分かっています。また、現在の池護岸石には後世の修復によって付加・変更された部分が少なからず存在することが明らかになりました。庭園西半部については明和期以降 4 回の修理が行われたと考えられます（図 22）。

発掘調査と絵画などの資料を比較検討した結果、明和年間以降、小規模な修復を繰り返し行なって維持する一方で、その時代に即した新しい要素が追加されていった庭園の複雑な修理・改修の歴史を知ることができました。

引用・参考文献

『史跡本願寺境内・名勝滴翠園・平安京跡―災害復旧事業に伴う保存修理工事・発掘調査報告書―』宗教法人本願寺、2020 年
『名勝滴翠園記念物保存修理事業報告書』宗教法人本願寺、2009 年
『洛中洛外図 都の形象―洛中洛外の世界』京都国立博物館編 淡交社、1997 年

表 1 本願寺主要事項・飛雲閣・滴翠園関係年表

年号	西暦	宗主	月日	本願寺主要事項（飛雲閣・滴翠園関連記事）	出典文献
天正19	1591	顕如	閏1. 5	豊臣秀吉、京都七条坊門堀川の地を寄進。	本願寺文書、大谷本願寺通記
			8. 5	顕如、天満から京都堀川に移る。	法流故実条々秘録、大谷本願寺通記
元和 3	1617	准如	12. 2	本山浴室から出火、両堂・対面所その他焼く。	法流故実条々秘録、知空書上、大谷本願寺通記
元和 4	1618	准如	5. 6	鐘楼を北方へ移す。	元和四年御堂其他御再興ノ記、元和日記
寛永元	1624	准如	8. 17	鐘楼を彩色す。	顕如三十三回忌記
寛永 9	1632	良如		浪ノ間、玄閣、首実験ノ間、唐門、飛雲亭等を購入。	紫雲殿由縁記
元禄 3	1690	寂如	11. 14	御座之間普請について飛雲亭に移居。	山中覚悟記、富島日記
元禄12	1699	寂如	8. 14	飛雲亭において、山門衆參公の議論あり。	山中家記録
宝永 5	1708	寂如	7. 2	飛雲亭、高塀等、大風洪水により破損。	年表略、家系、富島記
宝永 7	1710	寂如	11. 5	鐘楼堂を飛雲亭の藤棚の辺へ移すため、鐘を飛雲亭唐門辺の仮楼へ移す。	富島日記
正徳元	1711	寂如	1. 中旬	鐘楼堂建つ、下旬経蔵を東に移す。	富島日記
享保 9	1724	寂如	8. 15～17	飛雲亭に陽徳院（良如室）五十回忌を修す。	大谷本願寺通記、年表略
元文元	1736	住如		飛雲閣を修復する。	諸国江遣書状之留
明和 2	1766	法如	2. 23	松下烏石、醒眠泉を採掘し、法如・文如、碑を建つ。	錦花殿御次日記
明和 5	1768	法如	7. 28	上田織部、川那部勘之丞を滴翠園奉行とす。	大谷本願寺通記
			10	滴翠園内に茶室澆花亭を造る。	錦花殿御次日記
明和 7	1770	法如	4. 15	尾張真光寺、文如に滴翠園十勝詩を献ず。	錦花殿御次日記
安永元	1772	法如	1. 23	文如、滴翠園で詩会を催し、以後定例とす。	錦花殿御次日記
安永 5	1775	法如	6	江戸文人に滴翠園十勝の詩詠を求む。	考信録
安永 5	1776	法如	10. 11	文如、滴翠園に詩会を催し、三百首を得る。	考信録
天明 8	1788	法如	5	勤番覚音院法朗（桑名法盛寺）事に連座し飛雲亭に拘留さる。	大谷本願寺通記
寛政 7	1795	文如	9. 17	文如、飛雲閣に茶室憶昔亭を築く。	起居筆記
嘉永元	1848	広如		蓮如宗主三百五十回忌を迎え諸堂の修復。飛雲閣三階屋根修理。	成就講御修覆伺帳
明治14	1881	明如	11. 5	英国皇孫アルベルト・ヴィクトル、同ウェルズ来山、飛雲閣を宿舍とす。	御内事日記抄
明治41	1908	鏡如	12. 8	飛雲閣の修理始む。	鏡如上人年譜
明治43	1910	鏡如	3	飛雲閣修理終了。	教海一瀾
大正 4	1915			飛雲閣で各宗派管長懇親会。	教海一瀾
昭和元	1926		8. 15	真宗十派協和会、秘密会を飛雲閣で開催。	教海一瀾

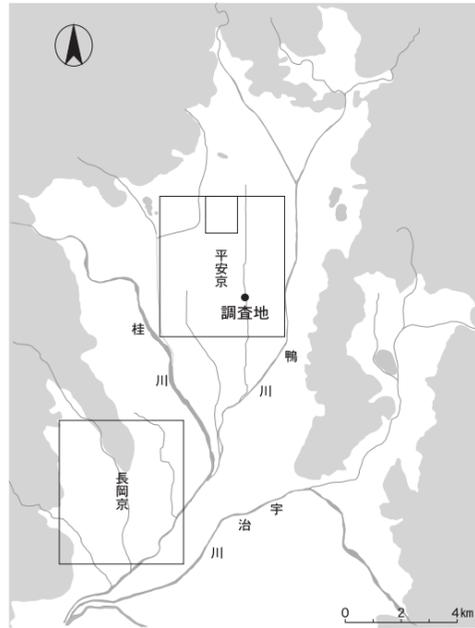


図1 調査地点図 (1 : 250,000)

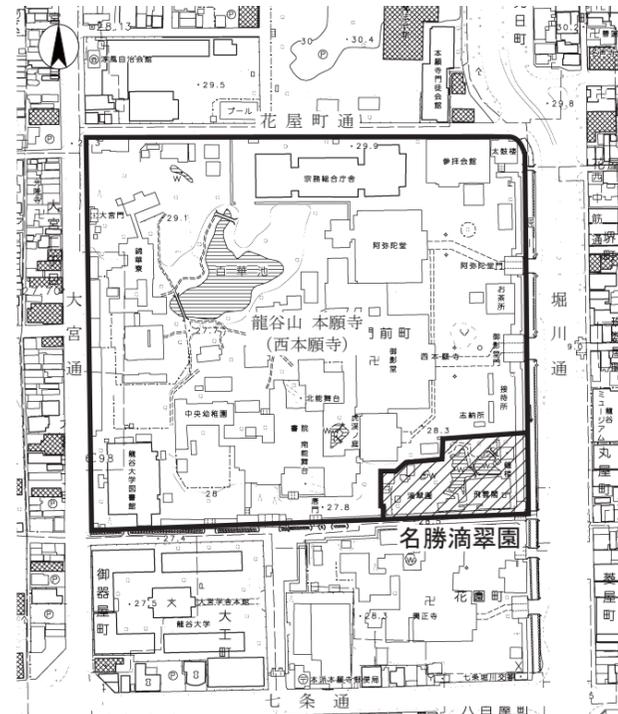


図2 調査地位置図 (1 : 5,000)

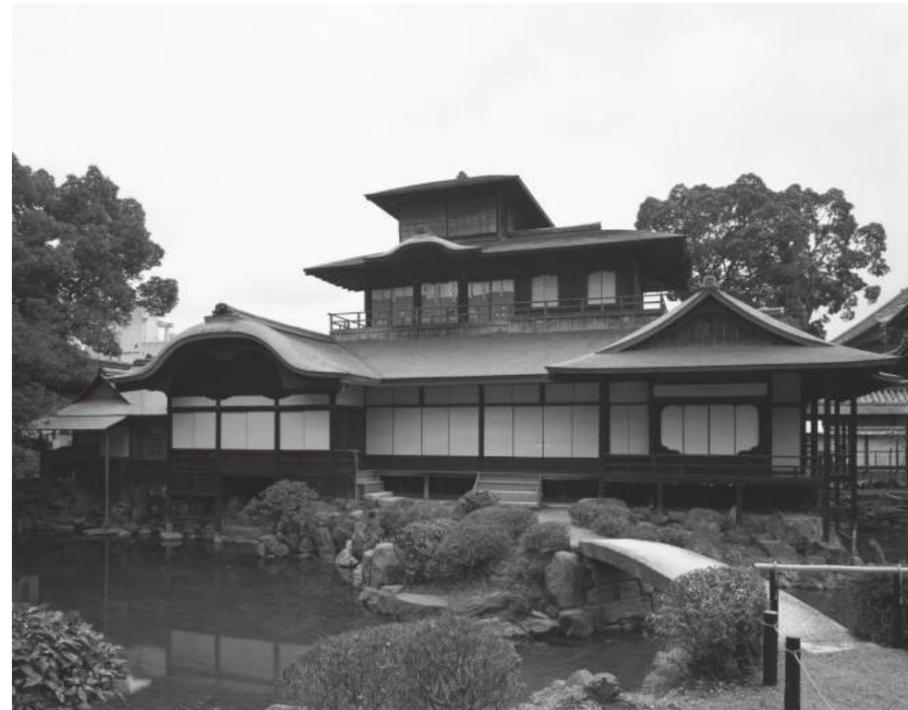


図3 飛雲閣と滄浪地 (北西から)

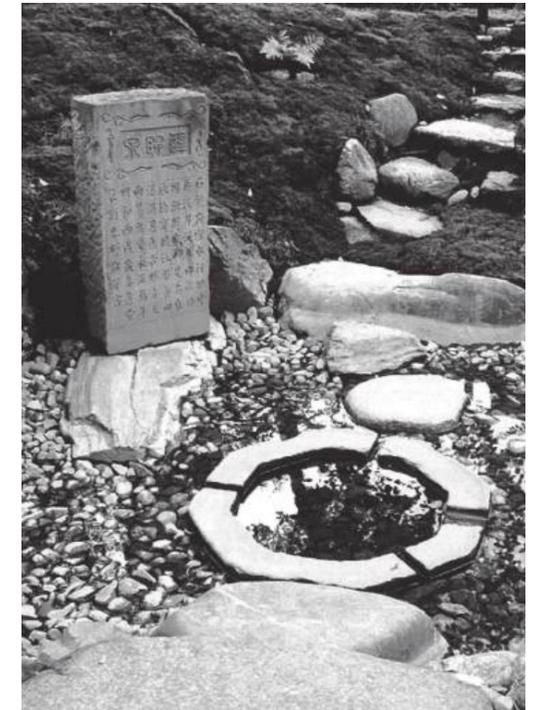


図4 醒眠泉と醒眠泉碑 (北西から)

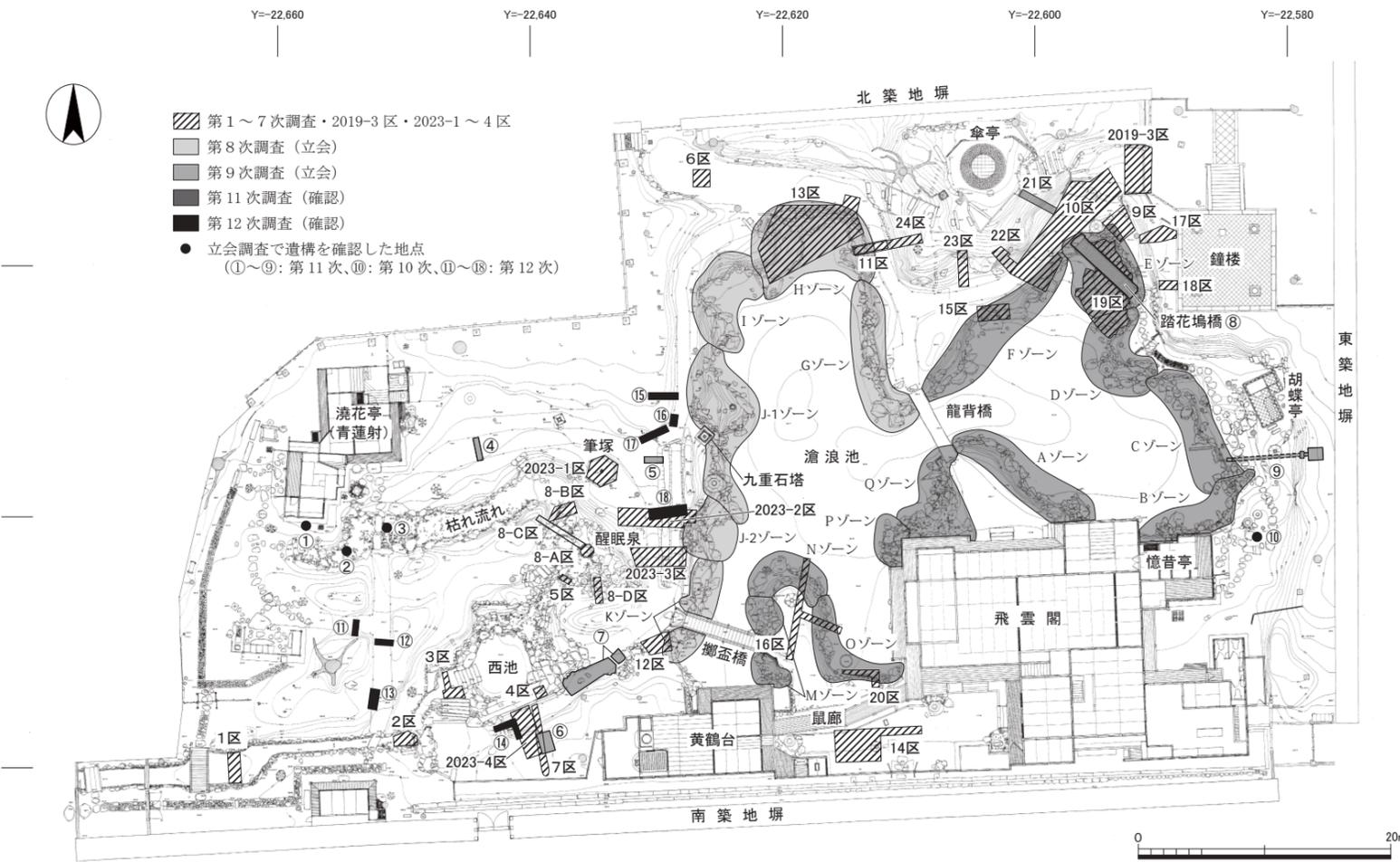
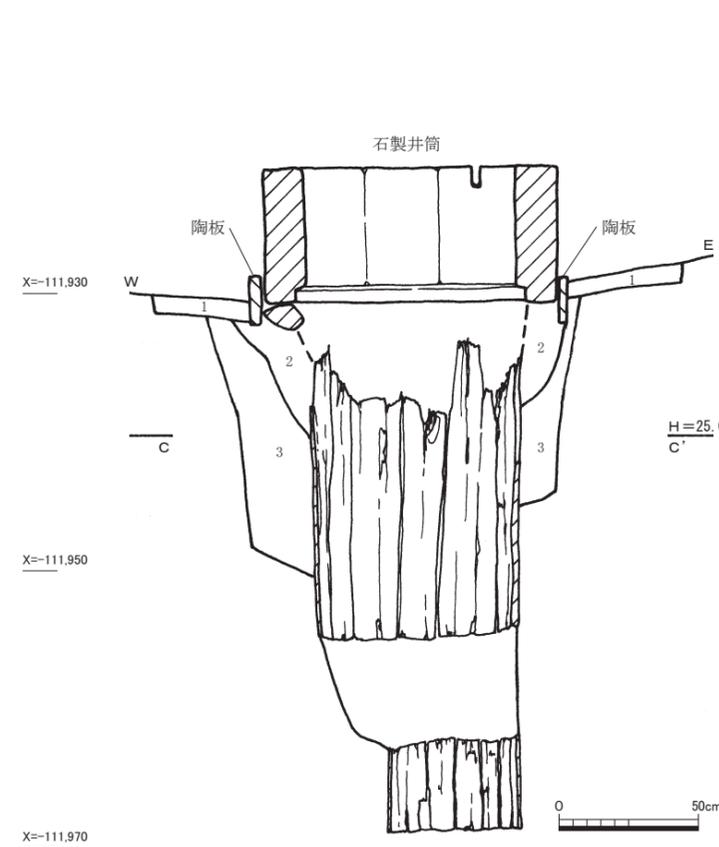


図5 発掘調査区・立会調査範囲・確認調査地点配置図 (1 : 500)



- 1 10YR4/2 灰黄褐色泥砂+10YR6/6 明黄褐色粘土
- 2 10YR3/1 黒褐色砂泥~砂礫
- 3 10YR2/2 黒褐色砂殿混礫 (径0.2~10 cm)

図6 8-A区醒眠泉・井戸実測図 (1 : 25)

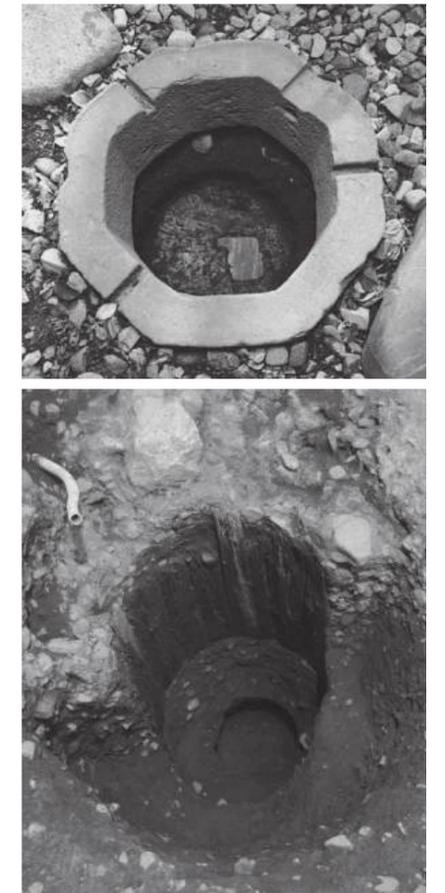


図7 醒眠泉・石製井筒と井戸 (上:北から 下:南から)

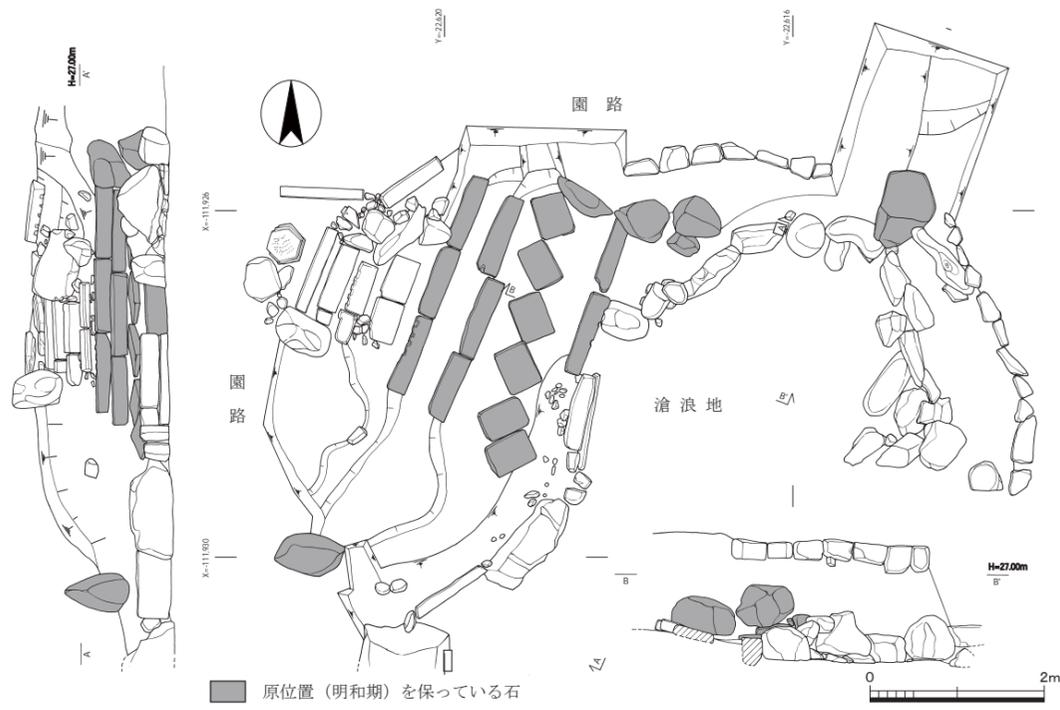


図8 13区実測図 (1 : 80)

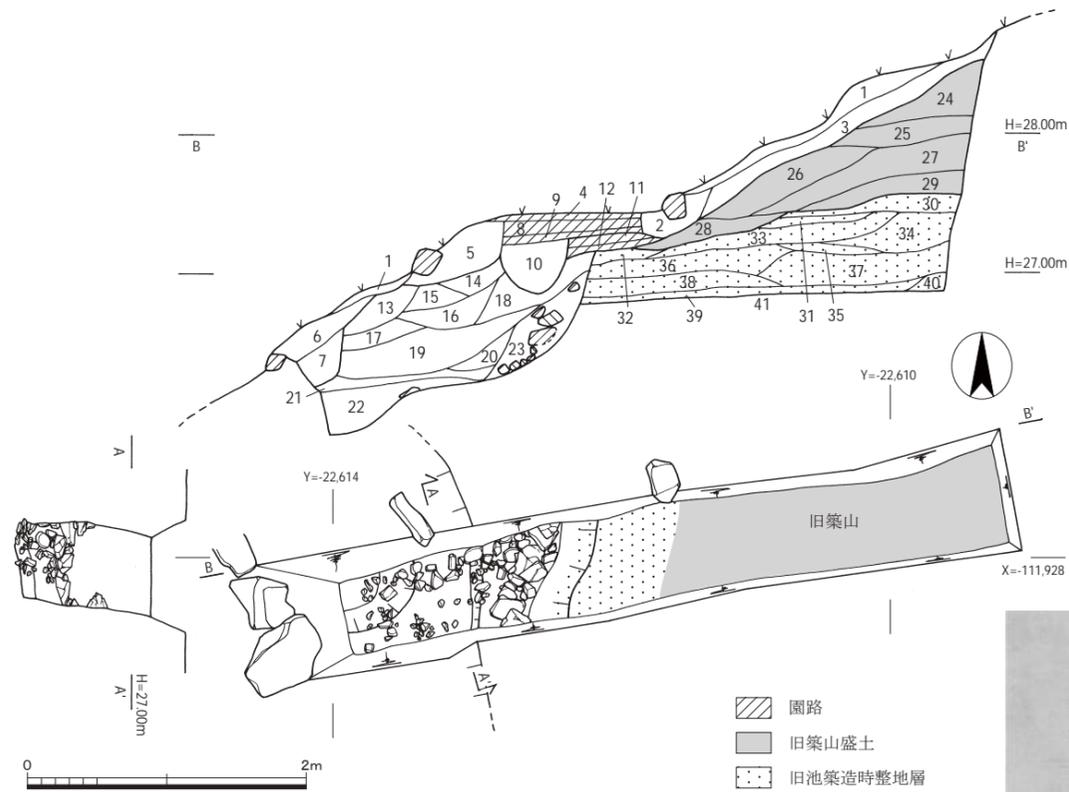


図12 11・24区実測図 (1 : 50)

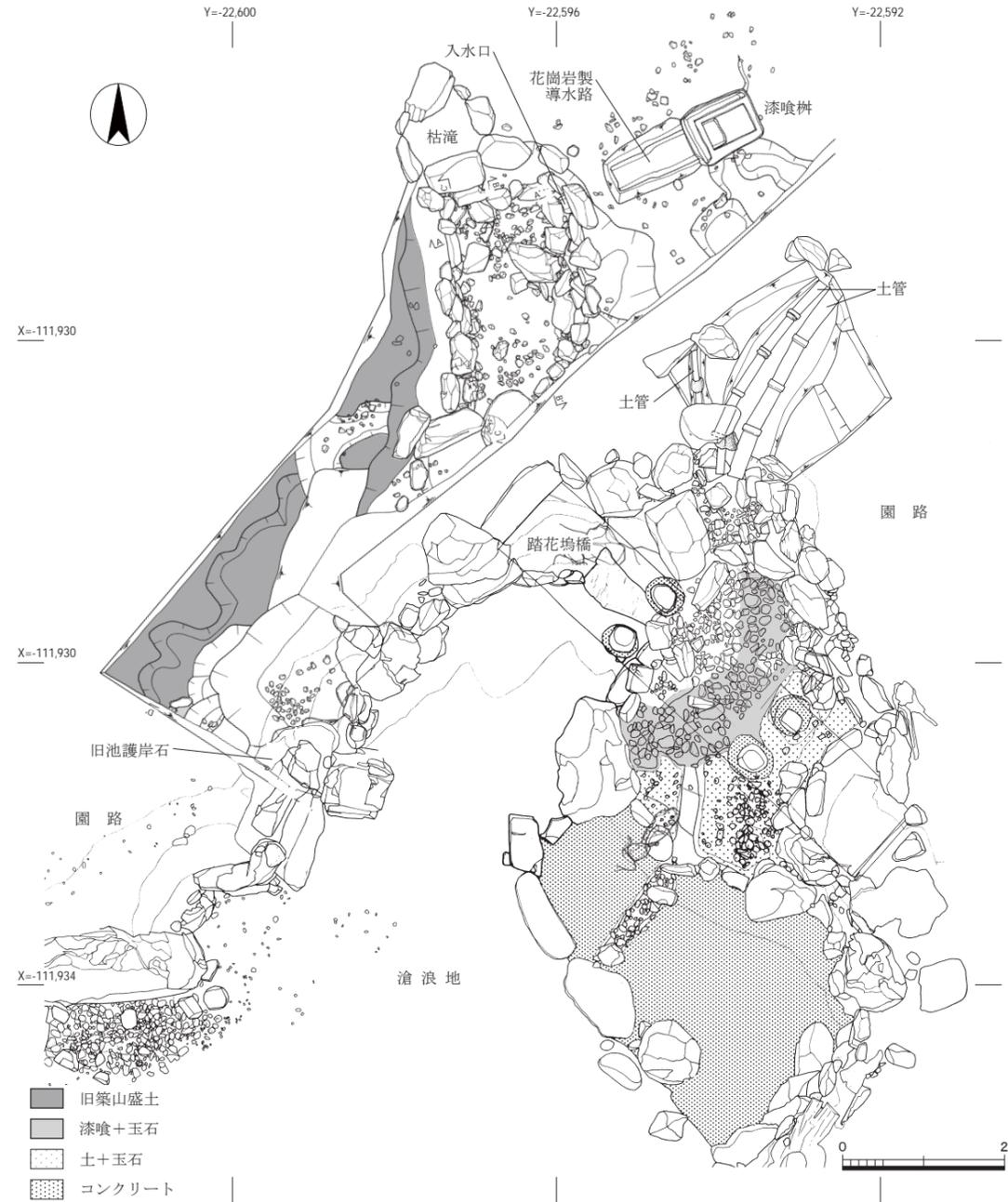


図9 9・10区平面図 (1 : 80)

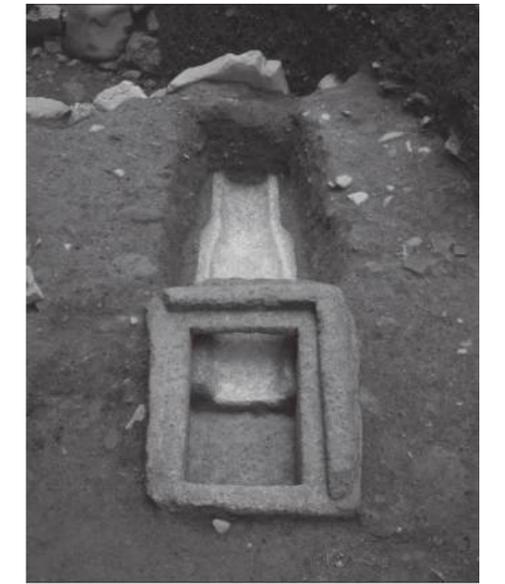


図10 10区給水部漆喰樹・石製導水路 (東から)



図11 10区給水部滝石組 (南西から)



図13 『滴翠園十勝絵』滄浪地北半、文化9年(1812)製作(部分、龍谷大学図書館所蔵)

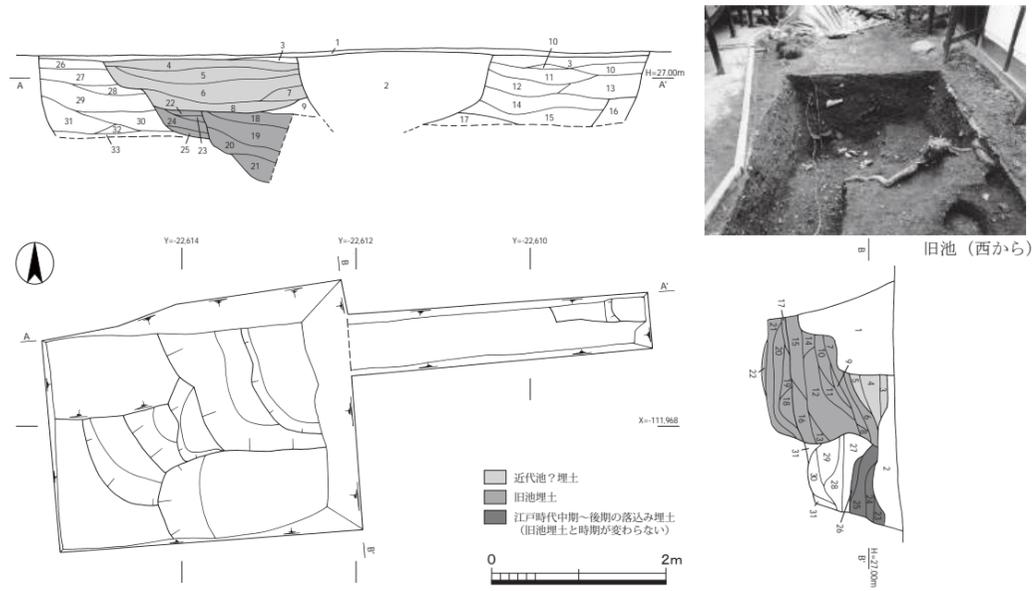


図14 14区旧池実測図 (1 : 80)



旧池 (西から)

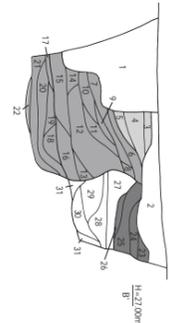


図15 醒眠泉旧池護岸石 (南から)



図17 飛雲閣前旧池護岸石 (北東から)

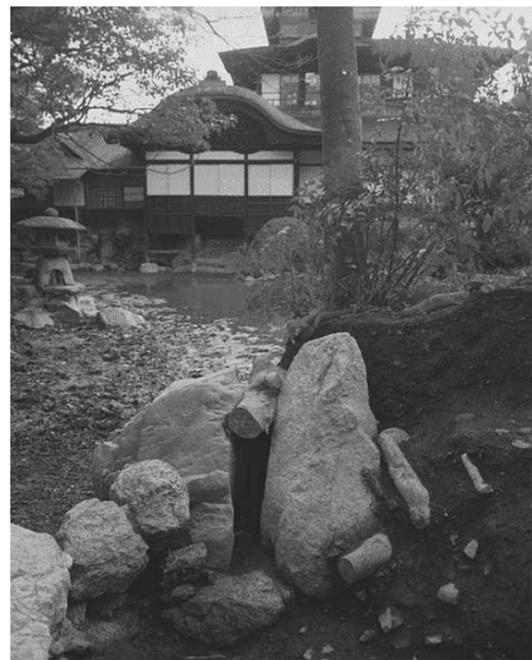


図16 10区旧池護岸石 (北から)

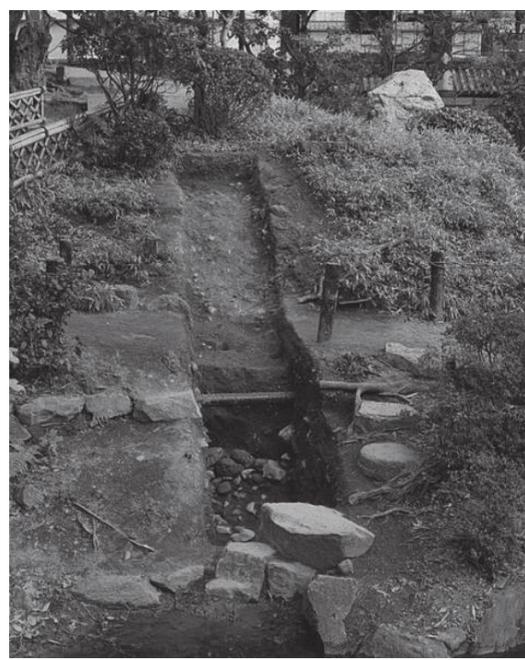


図18 11・24区旧池護岸石 (西から)



図19 『皇州緒餘撰京師部 西本願寺域内地圖』宝暦5年(1755)模写 (部分、国立公文書館所蔵)

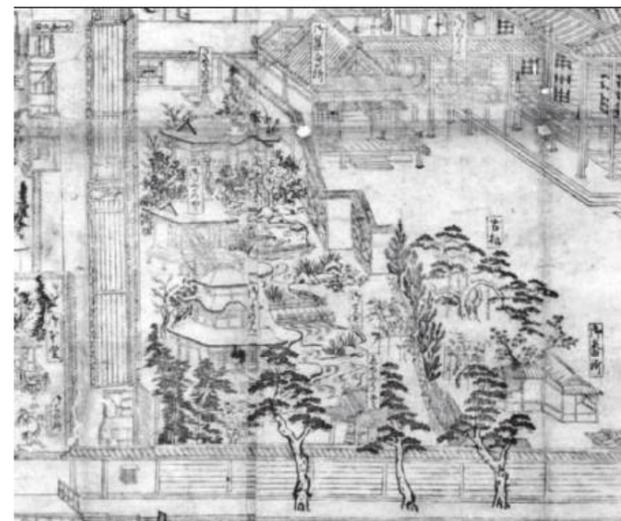
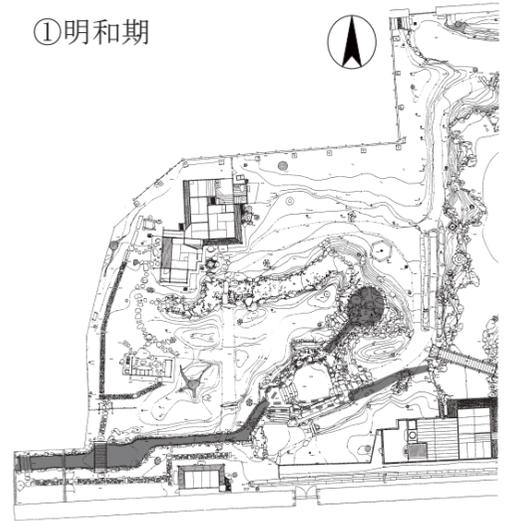


図20 『京西六條本願寺御大繪圖』宝暦10年(1760)刊行 (部分、龍谷大学図書館所蔵)



図21 「本願寺」『都名所図会』安永9年(1780)刊行 (部分、国際日本文化研究センター所蔵)



①明和期



②明治8~9年



③明治27~29年

図22 滴翠園西半部変遷図 (1 : 800)